

施設の
短期中期の
サービス向上への
取り組み

1. ルール、手順に基づく業務管理
 - (1)年度収支目標を達成する
 - ① 各事業の稼働率等月次状況を点検し、きめ細かくチェックする
 - ② 適正配置を目指し、人件費の負担を軽減する—業務内容を見直す
 - (2)業務管理の徹底を図る
 - ① 施設長会議をはじめ法人横断会議および施設内の各種会議を活用し、制度を熟知し、制度に基づく業務を日々確実に遂行する。
 - ② 家族支援システムを活用できる・使いこなすレベルにしていく。
 - (3)職員個々のスキルアップと事業を束ねて館としてのパワーを発揮する
 - ① チャレンジプランを活用し OJT を推進する
 - ② 本部主導および施設内研修に計画的に参加する
 - ③ 職員ひとりひとりの職責を果たす、また相互の理解を深め、互いを信頼し、配慮し、思いやりの気持ちを持ち、支えあえる集団になる
2. 各事業、施設としてのサービスの向上
 - (1)地域マーケティングを充実し、リアルタイムでの地域ニーズの把握をする
 - ① 神田エリア事業検討プロジェクト踏まえた事業構築を図る(認知型対応事業の組み換えを検討していく)
 - ② ニーズの高い「食のサービス」から繋がる次なるサービスを拡充する
 - ③ 近隣事業所新設に伴い、岩本のセールスポイントを更に明確にする
 - (2)利用者に満足いただける支援を実施する
 - ① 日々の利用者の状況を常に把握する—家族支援システムをフル活用する
 - ② ご利用者の声、サービス評価や第三者評価の結果を業務に生かす
3. リスク管理
 - (1)安心かつ安全な館を維持する
 - ① 毎月の防災訓練を実施し(いざという時の動きを体に覚える)—とりわけ大地震時の対応、対策を万全にする。また連雀との連携の仕組みを拡充する
 - ② 衛生管理の徹底を図る—感染症対策を徹底する(おこさない、持ち込まない、持ち出さない) 夏冬を中心に食中毒に注意する
4. 建物管理
 - (1)中長期施設メンテナンス計画を立案する
 - ① 設備備品等の買い替え等を年次に計画化する—区と協議する
まず現状の実態を把握し、当面平成30年までの計画を策定する
 - ② 資源および水光熱の無駄をなくし、コストダウンを推進する(エコプロジェクト主導での月次目標化)

施設の
取組

1. 淡路町の高齢者施設(ショート 21 床+デイ 42 名)新設(H25 年 6 月)を踏まえた利用者・家族への対応—岩本らしさ、ならではのサービスの提供をする
2. 個々の事業の運営と多種の事業を束ねた館としての動きを職員個々意識させる
3. 区立施設の特性を生かし、地域での世代超えた交流の場として、近隣子ども施設との交流も深める
4. 地域の行事等と連携した企画を推進する